

第6回学校訪問キャラバン（11月24日）を行いました

【上越市立頸城中学校を訪問しました】

- ◆ 義務教育課の山崎指導主事から、いじめ体験談や新聞の投書記事の紹介がありました。いじめを受けた自身の体験から、「いじめに遭ったら誰かに相談し、助けを求める」「いじめを見たら、言葉を掛けたり誰かに知らせたりする」「いじめを受けた人はいじめが心の傷としていつまでも消えない」「いじめで苦しい時間は長い人生から見れば短い時間であり、その後の人生で逆転できる時間は十分ある」との話がありました。



- ◆ フリーアナウンサーの船尾 佳代さんから、いじめ防止に関してのお話をうかがいました。感情的な理由だけで相手から「なまいき」「うっとうしい」と言われた自身の体験を話していただいたり、大津市のいじめ自殺事件での加害者の「相手に謝りたい。でも、いじめをしていたという実感がなかった」という言葉を引用し、「よかれと思って知らないうちに相手を傷付けることがある」「相手のことを押し量ることがいじめをなくすことにつながる」「自分がいっぱいいっぱいになったら頑張らなくてよい」等のメッセージを伝えていただいたりしました。

また、藤田市男さんのエッセー集「家族っていいなあ」に収められている文章を情感たっぷりに朗読し、命の大切さを呼び掛けました。

船尾さんからは、相談窓口カードも贈呈していただきました。

【県立高田高等学校を訪問しました】



船尾 佳代さんからいじめ防止に関する思いを語っていただいたり、相談窓口カードを代表生徒に渡していただいたりしました。「一人で悩まない。悩んだときにはカードを見て、相談してほしい」とのメッセージを生徒に呼び掛けました。